

## 4. 「とうみ食育の里プラン」推進に向けた課題の検討

東御市食育推進計画策定の取り組みから

柳澤亜紀（東御市役所）、中西裕子、岡田真平、久堀周治郎（身体教育医学研究所）

要旨：東御市は、食育推進計画「とうみ食育の里プラン」を平成20年度に策定し、今年度より事業推進の段階に入る。そこで、今後想定される課題を明らかにするために、地域の実態、計画策定のプロセスを振り返りながら、関係する内容を整理した。その結果、食育に関わる部署や関係団体は多数あるが連携体制と役割分担が不十分である現状や、管理栄養士はそれぞれの所属で役割を担って活動しているがライフステージを通じた実践ができていない現状があり、背景に、情報交換不足と、異なる認識の存在があることが示唆された。今後は、食育に関わる関係部署、団体間で情報交換を積極的に行うことによって共通認識を持ち、それを前提として連携体制を構築しつつ、それぞれ分担された役割を担うことが重要であると考えられた。

キーワード：食育、連携、役割分担、情報交換、共通認識

### A. 目的

東御市では、市民が望ましい食習慣を形成し、食環境の整備を含めた総合的な食育の推進を図ることを目的として、市町村食育推進計画を平成20年度に策定した。

本発表では、健康づくりの視点で関わった行政管理栄養士の立場から、食育に関わる課題として把握した地域の実態や、計画策定のプロセスを確認し、今後当市での食育推進に向けた課題を明らかにすることを目的とした。

### B. 方法

#### ①健康づくりの視点での食育に関わる地域の実態把握

食育に関わる地域課題を健康づくりの視点で把握した。

#### ②食育推進計画策定のプロセスの確認

計画策定のプロセスについて、全体のスケジュール、策定に関わった各会合の役割と内容、及び計画策定上を通して明らかになった問題点を整理した。

#### ③食育推進に向けた課題の整理

策定された食育推進計画の概要、計画実施の初年度にあたる今年度の具体的な事業計画を示し、今後、健康づくりの視点で食育を推進していく上での課題を検討した。

### C. 結果

#### ①健康づくりの視点での食育に関わる地域の実態

平成19年実施の市の乳幼児健診やアンケート結果より、年齢があがるにつれて、就寝時間が遅くなる傾向が見られ、小学5年生で約35%の子どもが10時以降に寝ていた。朝食をほとんど食べない児が中学生で6%おり、また食べていても一人で食べている児が中学生で約半数いる。内容もバランスが取れていない児が中学生で44%いるという地域の実態がわかった。

成人に関しては、東御市の特徴として肥満がなくても

血糖値が高い人（BMI18.5～24.9でHbA1c5.5以上）が50歳以上の男女に15～20%と多く、また、男女とも高血圧、男性は肥満と低HDLコレステロール改善への対策が必要と把握できた。

また、平成17年度から平成20年度まで、市の健診受診者を対象に血清亜鉛濃度調査を行い、約6人に1人の割合で亜鉛不足が見られるとともに、1食あたり8～10種類の食材を使うことで改善される傾向が確認できた。亜

表1 食育推進計画策定スケジュール

|       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| H20・4 | アンケート実施                            |
| 5     | 第1回市内栄養士連絡会<br>農政・商工観光と協議          |
| 6     | 計画（素案：未定稿）作成                       |
| 7     | 第1回庁内検討会<br>計画（素案）作成<br>第2回計画検討委員会 |
| 8     | 各課で計画（素案）の検討                       |
| 9     | 第2回庁内検討会<br>第2回市内栄養士連絡会            |
| 10    | 計画（原案）の作成                          |
| 11    | 第3回庁内検討会                           |
| 12    | 計画（案）の作成<br>パブリックコメントの募集           |
| H21・1 | 第4回庁内検討会<br>第3回計画検討委員会             |
| 2     | 健康づくり推進協議会に諮問<br>市議員全員協議会に報告       |
| 3     | 第3回栄養士連絡会                          |

鉛不足から偏食の問題、さらには取り巻く様々な環境、地域全体に着目することが重要との知見が示された。

## ②食育推進計画策定のプロセス

### (1) 全体のスケジュール

食育推進計画策定スケジュールは表1の通りであった。

### (2) 計画策定に関わった各会合の役割と内容

#### a) 計画検討委員会

メンバーは、食生活改善推進員、小・中学校PTA、母親連絡会、校長会、保育園保護者会、保育園長、JAで構成され、食育の推進に向けての意見聴取をした。

#### b) 庁内検討会

メンバーは、健康保健課、農林課、教育課、子育て支援課、生涯学習課、商工観光課、市民課で構成され、食育担当者、各部署間の情報交換と施策検討を行った。

#### c) 栄養士連絡会

メンバーは、県栄養教諭、県学校栄養職員、保育係栄養士、学校教育係管理栄養士、健康保健課管理栄養士、身体教育医学研究所管理栄養士で構成され、立場の異なる栄養士間の情報交換と役割分担の確認を行った。

### (3) 計画策定を通して明らかになった問題点

計画策定を通して次のような問題点が明らかになった。

- ・ 立場の異なる関係者間で共通認識が不足
- ・ 共通認識の上立った計画策定には時間が必要
- ・ 関心はあっても実行に移せない団体や個人が存在
- ・ 同種の企画を別の団体が重複して取り組んでいる、といった事業の整理が必要
- ・ 栄養士間の情報交換が不足していたため、ライフステージを通じた一貫性のある取り組みが不十分

以上のような問題が挙げられたが、計画策定を通して各課で行われている事業を互いに知り合い、それぞれの取り組みに関する情報を共有できたことは有益であった。

## ③食育推進に向けた課題の検討

### (1) 食育推進計画「とうみ食育の里プラン」の概要

この計画は、基本理念を「とうみの食で育む 元気な心とからだ 豊かな人間性」とし、食を中心としたまちづくりで元気な地域をつくり、住民が幸せな生涯を過ごすことを目標に掲げている。中でも、食育の取り組みや地産地消など食環境整備の推進にあたっては、市民、食に関する事業者、教育や保育、行政その他の機関が一体となって食育ネットワークを構築することが重要とされ、市民運動として食育を推進することが謳われている。

### (2) 平成21年度の食育推進に関わる事業計画

平成21年度は計画推進の初年度であり、具体的な事業として実施するものは以下にあげる内容とした。

- ・ とうみ食育市民ネットワークの募集・活動

- ・ 親子料理コンテスト
- ・ とうみクッキングガイド作成
- ・ 郷土食の掘り起こし

### (3) 健康づくりの視点での食育推進に向けた課題

本計画の策定にあたり、健康保健課は全体の調整を図る役割を果たした。その中で、行政内の様々な部署がそれぞれの役割に基づいて、意図や目的を持った事業に取り組んでいることが明らかになった。計画策定の過程において、それぞれが担当する事業内容の情報交換はできたが、事業の意図や目的、そして事業そのものの必要性についてはまだ十分な共通認識が持っていないことが課題として見い出された。

健康保健課の管理栄養士としては健康づくりの視点での食育推進を意図しているが、他の部署は、農業振興、地域振興等の視点での食育推進を意図している。これらを総合的に進めていくためには、互いの事業内容に関する情報交換をきっかけに、事業の目的・意図を十分に伝えあい、担当者間、さらには関連する外部組織や地域住民との信頼関係の元で事業を推進することが望ましい。健康づくり担当の管理栄養士として、健康づくりの視点がより優先されるように主張するだけでなく、農業振興や地域振興等、住民や地域全体の幸福に結びつく全ての視点が満たされるような事業の具体化が必要であり、そのための調整役を果たすことが必要と思われた。その意味では、今年度より募集する食育に関心のある団体・個人等と関係行政機関で構成する食育ネットワークは大変重要な存在となる。

## D. 考察

平成20年度に策定された東御市食育推進計画「とうみ食育の里プラン」は今年度より事業推進の段階に入るが、計画策定のプロセスを振り返ると、これまでも既に様々な部署で食育に関わる取り組みが行われているにも関わらず、それらの事業内容について情報交換がなされず、事業の意図や目的も十分に共有できてこなかったことが課題として見い出された。これから取り組んでいく食育は、何か新たな取り組みを起こすというよりも、むしろ、すでに取り組まれている、地域住民、関係組織、行政等の様々な活動を見渡して、それぞれの意図・目的を関係者が共通認識を持つことが重要と考えられた。それにより、連携体制が強化されるとともに、それぞれの役割分担によって、効率的で効果的な事業推進が期待できる。

健康づくりの原点に帰って、食育を通して住民一人ひとりが幸せな人生を過ごすことの支援を目指して、単に健康教育的な食育にとどまらず、食育をきっかけに地域のネットワークが円滑に広がり、根付いていくための調整役を果たしていくことが望ましいであろう。